

設定一覧

su, sudo の利用可能ユーザの制限

tcsh の設定

ホーム以下の設定ファイル

サービス整理

ファイヤーウォール

NAT

ホスト名

DNS

ダイナミックDNS !!!稼働後にインターフェイスの変更が必要かも。テストが必要。!!!!

DHCP

SSH

httpd

smb

yum

バックアップジョブ

gnome の設定

synegy のインストール

HDD のスピンドウン設定

インストール

Alt+F3

でインストールのエラーなどが見れる

バグ？

ログイン画面が真っ暗

たまにログイン画面がおかしくなる。

Ctrl + Alt + BS

で直る事がある。

設定ファイル、ディレクトリバックアップシェル

```
#!/bin/sh
if [ -e "$1" ]; then
  dir=.
  if [ "$2" != "" ]; then
    dir=$2
  fi
  op=
  if [ -d "$1" ]; then
    op=-r
  fi
  tofile=$dir/$1_$(date +%Y%m%d_%H%M%S)
```

```
cp -p $op $1 $tofile
echo "backup to $tofile"
fi
```

グラフィックドライバ

<http://support.amd.com/us/gpudownload/Pages/index.aspx>

から RADEON x1250 シリーズのドライバを落としてインストール。

```
aticonfig --initial -f
```

は問題がある場合のみ実行。

普通は特に問題なく動くはずなので、実行する必要なし。

ATI Catalyst Control Center が開ければ OK。

su, sudo の利用可能ユーザの制限

su の制限

http://itochif.com/contents/Linux/centos5/operation_0061.html

vi /etc/pam.d/su

```
auth          required          pam_wheel.so use_uid
```

をコメントイン。

ちなみに

```
auth          sufficient       pam_wheel.so trust use_uid
```

の方は、trust が付いていてパスワード無しで su が出来る。

こちらはオススメしない。

また、

/etc/login.defs への

```
SU_WHEEL_ONLY yes
```

は必要なし。

sudo の利用制限

visudo

```
%wheel ALL=(ALL) NOPASSWD: ALL
```

をコメントイン。NOPASSWD は sudo 時にパスワードを求めない。

パスワードを求める場合は

```
%wheel ALL=(ALL) ALL
%wheel ALL=(ALL) PASSWD:ALL
```

のどちらか。

また、sudo の実行時は path が変わるので

```
secure_path
```

の行を探して、編集する。

シェルの設定

シェルの変更

```
chsh
```

.cshrc

.tcshrc があるとそちらを読み込んでしまうので、.tcshrc は削除するかリネームしておく。

```
# パスの設定
set path = ( /usr/local/bin /usr/bin /bin /usr/X11R6/bin ¥
/sbin /usr/sbin $HOME/bin /usr/java/jdk1.6.0_07/bin)

# umask の設定
umask 022

# ページャ
setenv PAGER 'less -m'
# ファイル名の補完時に候補が複数あれば表示します。
set autolist
# Ctrl-d を押してもログアウトしないようにします
set ignoreeof
# Esc キーによる補完機能
set filec
# ビープ音を鳴らさない
set nobeep
#set hostname = `hostname`
# history 保存の数
set history = 100
# 重複する history を削除する
set histdup = erase
# ファイルにセーブする履歴の数 Edit
set savehist = 50
#set prompt="`hostname`{`whoami`}¥!: "

#alias ls      'ls -Fh --time-style=long-iso --color=auto'
alias ls      'ls --color=tty'
alias rm      'rm -i'
alias cp      'cp -i'
alias mv      'mv -i'
# alias less   'less -m'
alias his     'history'

#alias setdis  'setenv DISPLAY "$REMOTEHOST":0.0'
#alias kterm   'kterm -sb -sl 1000 -fg black -bg white -bd white -km euc -fr r16 -fn 8x16 -fk
kanji16'

#set prompt='[root@%m %c]# '
# ヒストリにサーチ機能を付加
#bindkey -k up history-search-backward
#bindkey -k down history-search-forward
bindkey ^R i-search-back # [C-r]: コマンド履歴から検索
bindkey ^P history-search-backward # [C-p]: 打ち込んだ部分まで同一なコマンドを検索
bindkey ^N history-search-forward # [C-n]: 同上、ただし順方向検索
```

ホスト名

```
hostname ホスト名
```

```
# cat /etc/hosts
```

```
# Do not remove the following line, or various programs
# that require network functionality will fail.
127.0.0.1 localhost.localdomain localhost
192.168.0.175 xxxxxxx
```

```
# cat /etc/sysconfig/network
```

```
NETWORKING=yes
HOSTNAME=xxxxxxx
GATEWAY=192.168.0.1
```

サービス

サービスの説明

http://ikubo.x0.com/unix/CentOS50_stop_Service.htm

<http://www.d3.dion.ne.jp/~koetaka/demon2.html>

サービスをコマンドから制御

```
# chkconfig --level 0123456 canna off
```

基本的にデフォルトのまま問題ない。
使わないと思われるものを落として構わない。
例

sendmail を落とす。

```
# chkconfig --level 0123456 sendmail off
```

smb を上げる。

```
# chkconfig --level 2345 smb on
```

logwatch

Red Hat Linux では、Logwatch と呼ばれるログ監視ツールが標準でインストールされます。Logwatch は 1 日 1 回 SYSLOG 内をチェックし、自動的にレポートを作成して管理者に通知する機能を提供します。Logwatch 全般の設定は /etc/log.d/conf/logwatch.conf ファイルで行います。

Logwatch は、cron で定期的にチェックするよう設定されているので、サービスを停止するには以下のコマンドでファイルの実行権をはずします。

```
# chmod -x /etc/cron.daily/0logwatch
```

デフォルトルート

デフォルトルートで使うデバイスの

```
/etc/sysconfig/network-scripts/ifcfg-eth*
```

に

```
DEFROUTE=yes
```

を付ける

DNS

DNS サーバーの設定

DynamicDNS

DynamicDNS の設定

DHCP サーバーの設定

DHCP サーバーの設定

SSH サーバーの設定

SSH サーバーの設定

Apache (httpd) の設定

Apache (httpd) の設定

samba サーバーの設定

samba サーバーの設定

ファイヤーウォールの設定

iptables でファイヤーウォール
iptables と hosts.allow、 hosts.deny

SELinux を無効にする

/etc/sysconfig/selinux

の

```
SELINUX=enforcing
```

を

```
SELINUX=disabled
```

に変更。

yum の設定

yum-updatesd を使う

/etc/yum/yum-updatesd.conf

do_update, do_download, do_download_deps を全て yes にする。

do_update 以外の do_download, do_download_deps を全て yes にする。

```
# automatically install updates
```

```
do_update = yes
```

```
do_update = no
# automatically download updates
do_download = yes
# automatically download deps of updates
do_download_deps = yes
```

自動インストールを行わない場合は

```
do_update = no
```

にする

yum-cron を使う場合

基本的に、yum-updatesd を使うので yum-cron の設定は必要ない。
あえて、yum-cron を使う場合は設定する

<http://a23187.yorozuyah.com/blog/?p=177>

yum-cron をインストールします。

```
# yum install yum-cron
```

次にインストールした yum-cron サービスを開始します。

```
# /etc/init.d/yum-cron start
Enabling nightly yum update: [ OK ]
```

自動起動を有効にしておきます。

```
# chkconfig --level 2345 yum-cron on
# chkconfig --list yum-cron
yum-cron 0:off 1:off 2:on 3:on 4:on 5:on 6:off
```

yum-updatesd は競合する可能性があるので停止します。

```
# /etc/init.d/yum-updatesd stop
yum-updatesd を停止中: [ OK ]
```

自動起動も無効にしておきます。

```
# chkconfig --level 0123456 yum-updatesd off
chkconfig --list yum-updatesd
yum-updatesd 0:off 1:off 2:off 3:off 4:off 5:off 6:off
```

これで自動アップデートが設定されています。

yum のリポジトリ

rpmforge を登録する

```
http://pkgs.repoforge.org/rpmforge-release/
```

から自分の環境にあった rpm を探して

```
wget http://pkgs.repoforge.org/rpmforge-release/rpmforge-release-xxxx.rpm  
rpm -ihv rpmforge-release-xxxx.rpm
```

通常は無効にしておく。

```
vi /etc/yum.repo.d/rpmforge.repo
```

で、開いて

```
enabled = 0
```

にする。 利用するときは

```
yum --enablerepo=rpmforge list
```

とか。

CentOS plus を有効にする

```
# vi /etc/yum.repos.d/CentOS-Base.repo
```

```
[centosplus]  
name=CentOS-$releasever - Plus  
mirrorlist=http://mirrorlist.centos.org/?release=$releasever&arch=$basearch&repo=centosplus  
#baseurl=http://mirror.centos.org/centos/$releasever/centosplus/$basearch/  
gpgcheck=1  
enabled=0 <- !!!!!!! これを1にする !!!!!!!  
gpgkey=http://mirror.centos.org/centos/RPM-GPG-KEY-CentOS-5
```

ミラーサイトを変更する

ミラーサイトが繋がらないとか重いとかの場合は変更する。

無理に変えなくても良いような気がする

<http://blog.goo.ne.jp/a24kane2000/e/5d2a4159af3e2719abc6f9755324f338>

[base][update] などの項目毎の mirrorlist= の行をコメントアウトし、
baseurl= 理研のサーバを追加する。

```
# vi /etc/yum.repos.d/CentOS-Base.repo
```

```
[base]  
baseurl=http://ftp.riken.jp/Linux/centos/$releasever/os/$basearch/  
[update]  
baseurl=http://ftp.riken.jp/Linux/centos/$releasever/updates/$basearch/  
[addons]  
baseurl=http://ftp.riken.jp/Linux/centos/$releasever/addons/$basearch/  
[extras]  
baseurl=http://ftp.riken.jp/Linux/centos/$releasever/extras/$basearch/  
[centosplus]
```

```
baseurl=http://ftp.riken.jp/Linux/centos/$releasever/centosplus/$basearch/  
[contrib]  
baseurl=http://ftp.riken.jp/Linux/centos/$releasever/contrib/$basearch/
```

それぞれの項目の gpgkey のところ

```
gpgkey=http://ftp.riken.jp/Linux/centos/RPM-GPG-KEY-CentOS-5
```

EPEL を追加する

```
http://ftp.jaist.ac.jp/pub/Linux/Fedora/epel/
```

から自分の環境に合う

```
epel-release-xxxx.rpm
```

を探す。例えば CentOS5 64bit の場合は

```
http://ftp.jaist.ac.jp/pub/Linux/Fedora/epel/5/x86_64/epel-release-5-4.noarch.rpm
```

見つけたら URL をコピーして

```
sudo rpm -ihv コピーした URL
```

例：

```
sudo rpm -ihv http://ftp.jaist.ac.jp/pub/Linux/Fedora/epel/5/x86_64/epel-release-5-4.noarch.rpm
```

インストールが終わったら、

```
sudo vi /etc/yum.repos.d/epel.repo
```

で

```
enabled=1
```

になっている箇所を

```
enabled=0
```

にして、使うときに

```
yum --enablerepo=epel list
```

とする。

キーボードの設定

レイアウト

キーボードの型式

```
japanese 106-key
```

レイアウト

```
japan
```

japan 以外を消して、japan だけにしないと誤作動起こすみたいだ。

日本語入力

インストールされなかった場合は

```
yum install scim-anthy
```

Atok と同じキーバインドにするには

1. SCIM入力メソッドの設定 -> フロントエンド -> 全体設定 -> キーボード配列 を日本語に(日本語キーボードを使っている場合)
2. ホットキーの開始、終了 に「変換キー」を追加 (お好みで)
3. SCIM 入力メソッドの設定 -> IM エンジン -> Anthy -> キーバインド -> キーバインドテーマ で Atok を選択
4. キーを設定 で 選択文節を確定 に Ctrl + n を追加 (お好みで)

ログインと X 転送の設定

```
gdmsetup
```

でログインに関する設定が出来る。
この画面のセキュリティタブの

```
TCP 接続を禁止する
```

にチェックが入っていると X 転送が出来なくなる。
ただし、SSH の X 転送とは無関係。

操作性

ウインドウの設定

ウインドウをつかんで移動する際に使用する修飾キーを [Alt] にしておくと [Alt + キー] の操作がおかしくなるかも? (かなり気のせいかも)

crontab でバックアップジョブ

root で

```
crontab -e  
夜中 3 時にバックアップ開始  
00 03 * * * /mnt/sdb/backup/backup.sh
```

gnome の設定

Nautilus

[編集] -> [設定] -> [動作] の常にブラウザ・ウィンドウで開く
サイドフレームを表示して、ツリーを表示しておく

デスクトップのアイコン削除

1 . [システムツール] -> [設定エディタ] を起動。
なければ

```
yum install gconf-editor
```

でインストール。

2 . /apps/nautilus/destop を開いて

```
***_icon_visible
```

のチェックを外す。

パネルの設定

画面上部と下部にパネルを配置。

- ・ 上部
 - ・ 通常のサイズ
 - ・ 通知アイコン、時計等を表示
- ・ 下部
 - ・ 大きめのサイズ。タスクリストが多段表示されるサイズにする。
 - ・ タスクリスト、ワークスペース、ゴミ箱等を表示

ゴミ箱をパネルに登録

パネルを自動的に隠す場合の、反応速度変更

gconf-editor を使うので、インストールしていない場合は

```
yum install gconf-editor
```

でインストールする。

- 1 . [システムツール] -> [設定エディタ] を起動。または、 gconf-editor を起動。
- 2 . /apps/panel/toplevels 開く
- 3 . 各パネルの hide_delay と unhide_delay の値を変更

アニメーションを無効する場合は

```
enable_animations
```

のチェックをはずす。

ワークスペース毎の壁紙変更

Gnome でワークスペース毎に壁紙を変更する

クリップボードマネージャ

Linux でクリップボード管理

XMMS

CentOS5 で xmms を使う

synergy のインストール

<http://code.google.com/p/synergy-plus/>

からダウンロードしてインストール

こんな感じのシェルで実行すると良いかも

```
#!/bin/sh
USER=`whoami`
TARGET=synergyc
pids=(`ps -ef | grep ${USER} | grep ${TARGET} | grep -v grep | awk '{ print $2; }'`)
for pid in ${pids[*]}
do
    kill -9 ${pid}
done
if [ "$1" = "start" ]; then
    synergyc -f -1 192.168.0.2
fi
```

RDP クライアントのインストール

必要に応じてインストールする

```
yum install tsclient
```

updatedb の検索対象を設定

Linux で locate を使ってファイルを検索する の updatedb が検索する対象を確認、設定しておく。

HDD のスピンドアウン設定

Linux でアクセスの無いHDDをスピンドアウンする

/etc/rc.local

```
/sbin/hdparm -S 120 /dev/sdb
```

/etc/smartd.conf

```
/dev/sdb -d ata -H -m root -n standby,q
```